

進路たより

NO. 2

進路希望調査を連休前に配布しようと思っていたのですが、思わぬインフルエンザの大流行で朝のうちに下校になってしまいましたので、プリントを渡すことができませんでした。そこで、連休あけではありますが、あらためて配布いたします。子どもの今現在の希望と、保護者の考えを記入していただき、5月11日（月）まで、お忙しい中ではございますが、各担任までご提出くださいますようお願い申し上げます。進路希望は、あくまでも、今現在の希望です。今後、変わってくることも十分考えられますが、いい機会だと思っていただき、親子で将来を考える第一弾にしてください。

ON YOUR MARK

今から何年前でしょうか。私、実は生まれて2曲ほど合唱曲を作っているのですが、そのひとつがK中学校の50周年記念曲で作った『ふるさとの虹』というものなんです。

その時の生徒会長は、K中はじまって以来の女子の生徒会長。その名をYさんと言いました。正義感が強く、わが道を行くというタイプで、少々孤立気味だったときもありましたが、持ち前の芯の強さで初代女子の生徒会長を務めました。

生徒会長のYさんは、その後市内の高校に進学しました。そして、ちょうど3年生のときに、Y県で全国高等学校総合文化祭が行われときの実行委員になりました。その時、大会テーマソングを作ったのもYさんだったんです。歌は『虹』という題で、わが故郷にある文化を大切に思う気持ちが詩によく現れていました。詩の中には“誰もが未来へON YOUR MARK”っていう詩があります。

“ON YOUR MARK”とは、陸上や水泳などで、スタートにかけられる言葉です。日本流に言えば、“位置について”ということでしょう。とってもいいなあと思ったものです。私の作ったものなんて相手にならないくらい、心に染み込む曲でした。なんだか私、この曲は自分の曲のAnswerソングみたいだと勝手に思っていて、是非、今度会ったら、絶対にそのことを伝えようって思っていたんですが、その後10数年会えずじまいでした。大会終了後、全国大会の様子が写っているビデオが、Yさんから私の家に届きました。

実は、昨日、市内の体育施設で偶然にそのYさんと会うことができたのです。幼い二人の子どもを抱えながら、「先生！」と遠くから手を振ります。最初は誰だかわかりませんでした。それでも「K中だったYです」と彼女の方からの自己紹介で、瞬時に心に引っかかっていたものが思い出されました。

「今どこに住んでいるの？」と聞きます。彼女は「ニューヨークです。」と答えました。「今、旦那の仕事の関係でニューヨークに住んでいます。妹の結婚式とビザの更新で一時帰国です。」とYさん。

誰もが認める芯の強さは、15年経った今も、何ら色あせることはありませんでした。なんだかそれが一番嬉しくて。Yさんと別れた後、家に帰って、あのビデオをもう一度見直したんです。

運動会練習は、ほとんどが冷たい雨で悩まされました。ムカデ競走で1年生が、いくら足を回

転させても前にいかないのは無理もないことです。それでも、あんなに短い練習時間の中、各組が、ちゃんと当日まですべての準備を終えたのですから、それだけでもすごい。

運動会当日まで、応援合戦や看板、各種目がちゃんと『位置についていた』こと、それのほとんどが、運動会の実行委員会や組幹部の生徒の手で行われてきたんです。運動会は、本番前に、もうすでに成功していたということでしょう。

閉会式での組頭のメッセージには、驚きました。

特に優勝を逃して、一番悔しいはずの赤組や青組、白組の組頭の生徒たちのメッセージは、その話の量やその内容から、とても驚かされました。ある生徒は、負けたのは悔しいけど、4色みんなが頑張ったことに価値があるのだと語り、ある生徒は流行りの詩吟を使って、『運動会が成功したから、これからの学校生活はきっと明るくなるんだ』と宣言したり、人数が少なくすべての種目でハンデイがあった白の生徒は、ここまでやれた自分たち、そしてそれを支えた組のみんなを称えていました。

原稿もなく、大観衆の前で、自分の思いを堂々と言える。いや、あの場になって、言おうと思わせた何かがあるんですね。

特に白組は、準備のときから欠席者が多く、大変でした。

運動会中、綱引き競技で負けた女子生徒の中には、悔しさから涙を流している人もいました。でも、次の種目の男子騎馬戦では、気持ちを切り替えて、また大きな声で応援しなおします。

今思うと、その姿こそ、あの言葉“ON YOUR MARK”なんだなあって気づいたんです。

“位置について”というのは、「準備して」というだけじゃないんだなあって。

“ON YOUR MARK”とは、何度でも、やり直しがきくということなんじゃないかって。失敗しても、敗北しても、何度でも何度でも“次のゴールに向かって位置につく (ON YOUR MARK)”，運動会の白組は、何回も何回も ON YOUR MARK していたんですね。

別れ際に Yさんは、「40歳になったら、夫婦で世界をまたにかける事業を起こそうって話しているんです。」そう私に語ってくれました。

ぐずっている2人の子どもをなだめながら、去っていくYさんをみながら、次に会うことがあるとしたら、きっとそのときは世界中を飛び回っているYさんになっているんだなと予感します。

誰もが、未来に向けて“ON YOUR MARK”しているんです。

そして、人は何度でも、“ON YOUR MARK”できるんですね。

運動会のとときの生徒の姿と15年前の教え子のYさんとが重なって、なんだか、焦りを感じてしまいました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp